建設工業新聞

2020 年 11 月 11 日（水）5 面に掲載

問題を明確化 土木、建築の官民共同で

木材利用シンポジウム in 福井開催（上）

木利研10周年記念

木材利用シンポジウム in 福井が6日、行や、民間の建築、土関係者ら約160人参加し、福井市宝永丁目の県国際交流会で開催された。福井県木材利用研究（吉田雅雄会長）の設立10周年を記念し、有志で実行委員会（吉田雅雄委員長）を構成し実現した＝写真。

吉田氏は「日本が誇れる森林資源を、なぜ有効利用できないか」と会発足点の研究テーマを示し、「木材を山から生み出す生産者と、その材料を加工し製品にする製造者、そして、その製品を利用する消費者のバランスが良くないことが原因の一つ」と、改めて指摘。今

吉田 雅雄委員長

豊富な森林資源を有効利用へ

森林は、世界に誇れる我が国の資源です。そこから生まれる木材は、多様なモノへと変化し、私たちの生活を豊かにしてくれます。しかし、その豊富な資源が有効利用されていません。木の資源の問題に気づき、土木と建築、バイオマスの各分野で木材利用を考える研究会を立ち上げ、ことしで節目の10周年。改めて、木材利用を、ともに考えるシンポジウムを計画しました。

シンポを製機として、今後も研究活動を一層深め、解決へむける力としたい考え。

内容は、特別講演3氏、一般発表7氏、ポスターセッション12団体。木材利用シーズ集29件とした。

今企画は、日本森林学会と日本木材学会、土木学会、福井県建設技術公社で成る、土木における木材の利用拡大に関する横断的研究会が共催。また国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所、林野庁近畿中国森林管理局福井森林管理署、福井県、福井市、福井県森林組合連合会、福井県木材組合連合会、福井県建築士会、福井県測量設計業協会、福井県建設業協会、福井地域地震防災研究所、ふくいオープンイノベーション推進機構、近畿建設協会が後援した。

【特別講演】

※農林水産省の長野麻子林野庁木材利用課長はリモート参加

テーマは「これからの木材利用～みんなでウッド・チェンジ」

宮副氏

九州橋梁設計相談役（CM）、木材利用研究会（佐賀）会長の宮副一之氏　木材の土木利用（木杭）促進への鍵について～低平地の軟弱地盤と共存する歴史と産学官活動を通じて　佐賀平野における木杭活用の歴史から、佐賀大学を中心とした木杭研究。木材利用研究会（佐賀）の活動紹介。木材の土木利用（木杭）促進の問題点。木杭の耐久性・機能性懸念への対応。木杭は粒工法との比較対象にならない（木杭は現場材料として保護視？）への対応。図などの設計参考と施工の規格範囲への対応。バラツキが多い木杭設計手法への対応。木杭活用関係者への情報共有の重要性、など。

嶋野氏

法政大学デザイン工学部長・教授　嶋野禎昭氏

～ヨーロッパの木材活用にみる持続可能な社会づくりの伝統　中近は社会における森林利用関連法は、資源管理や建築物の寿命にも言及し、持続可能性を計画化したものである。木材物質から生まれた木造都市。コミュニティによる資源管理の伝統。コンパクトな集住による持続可能な社会。地域産業と取得管理としてのエネルギー自立。地域産業が活躍する仕組み。素材産業からの脱却～低投資型の付加価値産業へ。歩留り向上による収益性改善。我々は手段が完璧で、目的が支離滅裂な時代を生きている（アルベルト・アインシュタイン）を紹介。

株式会社 AB コーポレーション